（別紙２）

「新時代の物流チャレンジ　－関西から発信・発進－」

日本物流学会第 36 回全国大会
実行委員会　一同

わが国は、これまでの拡大を基調とした時代から、人口減少や労働者不足、また少子高齢化や地域間格差の拡大など、新たな問題に立ち向かう時代となった。そのため、政府は 2016 年 1 月に今後の経済発展と社会的課題の解決を両立させる新たなコンセプトを提唱した。この新たな時代の課題を解決するには、IoT を用いて多くの情報（ビックデータ : BD）を収集し、これを人工知能（AI）で分析することで新たな社会の姿を描くこと、さらにはロボットや自動化・自律化といった先端技術の活用により、労働者不足などの課題を解決しようと目論んでいる。これを第 4 次産業革命と捉え、これによってもたらされる社会を、これまで人類が歩んできた狩猟、農耕、工業、情報の社会に続く 5 番目の社会として Society 5.0 と称している。

一方、目を世界に転じても、ポピュリズムの台頭や移民問題、激しくなる貿易摩擦など、拡大したグローバル経済の反動とも思えるような問題が山積しており、国連は 2015 年 9 月に SDGs（Sustainable Development Goals）を採択し、17 の目標を掲げた。その中には、7%の経済成長を掲げながら貧困問題や不平等問題、さらには環境問題への対応など、「経済」「社会」「環境」の視点から持続可能な社会構築を目標としており、Society 5.0 が掲げる目標と重複しているものが多い。

このような「新時代」にあって物流の重要性は再認識され、新たな課題への挑戦が求められている。物流は、新時代の企業活動や日常生活を支える重要な社会インフラ産業に成長しなければならず、特に、グローバルに拡大したサプライチェーン全体の効率化・高度化には、イノベーションが求められている。また、今後もさらに拡大するであろう越境 EC への対応や宅配におけるラストワンマイル問題に対しても、物流の責任は大きい。加えて、総合物流施策大綱（2017-2020）にも示されたように BD、AI、IoT を利活用できる人材の育成や災害時における物流のあり方も大きな課題である。物流には挑戦すべきことが多々ある。

第 36 回日本物流学会全国大会実行委員会が統一テーマを「新時代の物流チャレンジ」(challenge：課題・挑戦）とした意図はそこにある。この課題を開催地である関西の諸企業がいかに考え、どう挑戦しているかを発信し、大会の諸議論を通じてともに発進できればと望む。会員はもとより、多くの方々の積極的な参加と活発な研究報告、学術交流を期待する。